



ほけんだより

20年度3月号
明照保育園



【子どもの健康状態】

お遊戯会前にインフルエンザにかかる子が増え、特に月組さんの保護者の方はドキドキしたと思います。残念ながら当日欠席の子も数人いましたが、前日まで大事をとってお休みするなど、ご協力ありがとうございました。2月中旬頃より乳児さんに水ぼうそうでのおやすみが多く、またインフルエンザも少なくなっていますがまだまだ注意が必要です。

【3月3日は耳の日ー耳を大切にしようー】



■滲出性中耳炎とは

8歳以下の子どもの多くで見られます。鼓膜の内耳腔に滲出液が溜まっている為、鼓膜の振動が妨げられて耳の聞こえが悪くなります。急性中耳炎が完全に治りきってなかった場合や鼻の病気やアデノイド（鼻と喉の境目にある扁桃が大きくなる病気）があって耳管の通りが悪いときに起こります。

耳の聞こえが悪かったことで、乳幼児期に発達の遅れの1つの原因となっていたことも実際にありました。

小さい子は自分だけでは気がつきにくく、それまでは耳がよく聞こえていたのに最近では聞き返すことが多い、ちょっと離れたところから呼んでも返事をしない、TVのボリュームを大きくしないと聞こえない等、どうも耳が聞こえにくいようだと言った家族の方が気づいて受診する事が多いようです。

また滲出液がたまっているため、細菌感染を起こしやすく、急性中耳炎を起こしやすくなります。

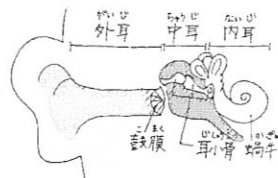
以上のような症状が見られるときは、早めに耳鼻科を受診しましょう。子どもや保護者が努力しても繰り返すときは繰り返してしまいますが、治療を途中でやめると長引くことや悪化する事があります。子どもが成長すれば中耳炎はかかりにくくなります。医師の診察結果や治療方針を納得のいくまで聞いて、そのつど直していきましょう。

■急性中耳炎とは

風邪を引いたときにウイルスが中耳に進入し化膿する病気です。大人に比べ乳幼児耳管は短く太く水平になっているため、のどからウイルスが容易に入り込みやすい、つまり中耳炎になりやすいのです。

症状としては、高い熱が出て耳を痛がったりします。痛みを訴えられない赤ちゃんや子どもの場合、溜まった膿が鼓膜を破って出てきます（みみだれ）

● 耳のつくり



● 耳のはたらき

- ①音をききとる
 - ②からだのバランスをとる
 - ③音の方向を知る
- 以上の大切なのはたらきがあります。

【耳に入った虫】

キャンプ・臨海学校など野外活動や、何かのはずみに耳に虫が入ってしまうことがあります。

耳に虫が入ると、耳の中でガサガサ動く感じがしたり、ブンブンと羽音がしたり、チクチクしたりします。

このような場合の応急手当は、室内を暗くするか頭から遮光出来る布などを被せて暗くし、懐中電灯の光を耳の穴に当てます。光の方に向かって出てくることがあります。または、オリーブオイルかベビーオイルなどを人肌程度に暖めて、虫の入った耳を上に向け耳たぶをひっぱり耳の穴をのぼして、スポイトかスプーンなどでオイルを数滴垂らします。オイルで息が出来なくなった虫は、飛び出して来ます。

それでも出て来ない場合は、病院に行って取りだしてもらいましょう。虫が取れても耳の中が痛い場合は、耳の中を虫に刺されたり、かまれたりしていることがあります。そのような場合も、放っておかず、病院で処置をしてもらいましょう。小児科には耳の奥まで深く見ることが出来る器具や、耳の奥を消毒したり、薬をつける器具も揃っています。



【おわりに】

今年度はどんな一年でしたか？だんだんと暖かくなってきましたが、体調を崩している子は、体を休めるときはしっかり休めて、残り少ない学年末を健康に過ごせるといいですね☆

ひとまわりもふたまわりも大きく育った子どもたちが、これからもどんな芽を出し、どんな花を咲かせるか楽しみです。